平成29年度　第3回古賀市文化芸術審議会議事録

日　時：平成29年10月18日（水）　10時00分 ～ 12時00分
場　所：市役所第1庁舎4階第2委員会室
出　席：審議会委員　緒方泉会長、中山早由利副会長、加藤潤二委員、坂﨑隆一委員、
志賀満江委員、豊村良子委員、西野宏委員、米倉小夜子委員
事 務 局　清水万里子教育部長、星野美香文化課長、木村眞由美歴史資料館長、
川原幸恵文化振興係長、文化振興係主事田中音羽
欠　席：審議会委員　平井康之委員、結城俊子委員、
傍聴者：な　　し

配布資料
①レジュメ（第3回古賀市文化芸術審議会次第）
②平成30年度文化芸術振興事業計画（案）（事前配布）
③文化芸術関連事業のアクションプラン分布図（事前配布）
④平成29年度古賀市立歴史資料館要覧
⑤男女共同参画セミナーのチラシ

（司会：川原文化振興係長）

１　開会の言葉（清水教育部長）
２　会長あいさつ
今日は平成30年度の事業計画についてのお話を伺って、我々の方から様々な観点からの意見を述べさせていただく機会になると思います。先日2週にわたり、つながり広場の関係でボランティア講座に参加させてもらって、ちょうど文化祭の開催期間中でしたが、古賀市の場合は文化活動、ボランティア活動が非常に盛んに行われていると改めて思いました。市民の方々が所属されるボランティアが68団体あると言われていました。本当に多彩なボランティア活動をする中で、地域の様々な課題を発見することに繋がっていると、団体の方々からお話を聞かせていただく中で思いました。ただ、どの団体も、高齢化、次の担い手探しというのに苦慮されているようです。もちろん継承することだけがいい訳ではなく、すそ野をどう広げていくのかも重要な課題です。平成30年度の文化活動も、どうように展開できるかを皆さんとお話できればと思っています。今日は短い時間ですが、それぞれの立場からご意見いただければと思っていますのでどうぞよろしくお願いします。
３　協議事項
（１）平成30年度文化芸術関連事業計画（案）（田中）
ご説明させていただきます。平成30年度文化芸術振興事業（案）という資料をご覧ください。まず、様式について少しご説明させていただきます。以前までは前回の審議会で提出いたしました報告書と同様の様式でご報告させていただきましたが、今年度は委員の皆様からのご指摘も踏まえ、少し様式を変更させていただきました。一番上に記載をしておりますのは、古賀市文化芸術振興計画のアクションプランの個性を起こす、新しい魅力を起こす、環境づくり、誇りを起こすという4つの柱です。さらに、個性を起こす、新しい魅力を起こすについては、今ある宝を再認識する、眠った宝を起こす、人にやさしいまちづくり、ざわめきづくりに分類分けをして記載しております。そしてさらにその下には、アクションプランの行政がおこすのところに短期と長期の目標を記載し、最後にそこに該当する文化振興係が行う事業について記載しております。アクションプラン分布図の方をご覧いただけるとわかると思いますが、複数の目標に該当する事業については、アクションプラン分布図の方に重ねて記載させていただいていたのですが、文化芸術

振興事業（案）の方には、最も近いものを、目標の色に近いものの下に事業名とともに記載させていただいていて、重なっている目標の下には、事業名と記載場所について記載させていただいております。アクションプラン分布図と、平成30年度文化芸術振興事業（案）はリンクしておりまして、分類の色や事業の先頭には番号なども記載しております。今回記載しております事業については、文化課文化振興係が行っております事業のみとなります。事業について簡単ではありますが、平成30年度文化芸術振興事業（案）に沿ってご説明させていただきます。まず、古賀市の個性を起こすについてご説明させていただきます。本目標、今ある宝を再認識するに13事業、眠った宝を起こすに2事業行っております。(1) 糟屋地区美術展と (2) 福岡Ⅰブロック芸術文化のつどいについて。これらは文化交流事業事務の一部で、文化協会に委託している事務事業の1つです。近隣市町との文化交流や古賀市の文化的な魅力の発信を目的とし、年1回実施されております。(1) 糟屋地区美術展では、毎年古賀市から数名入賞者が出ており、古賀市の文化度や創作意欲の向上につながっています。(2) 福岡Ⅰブロック芸術文化のつどいでは、毎年3～4団体ほど出演しており、糟屋地区1市7町と福津市・宗像市に向けて、古賀市の文化芸術活動の成果を発信する機会になるとともに、出演団体の交流の場にもなっております。次に (3) 一点美術館について。これは公共施設美術品展示事業の一部です。1ケ月ごとに作品の交換を行い、前年度に優秀な成績をおさめた古賀市民の作品を市役所の市民ホールに展示しております。展示場所や展示方法については、以前から審議会でご意見いただいておりますことから、現在検討中です。またこれとは別に、公共施設美術品展示事業の一環として、市役所や学校と公共施設には、絵画等の作品を常設展示しております。次に (4) 芸術祭について。これは文化芸術振興事業の一つとして、文化協会に委託している事業の一つです。古賀市内で活動する団体の中でも、師範・師匠クラスの方の発表会となっております。美術展と舞台演技の披露を行っており、グレードの高い様々な作品や演技を通して、文化芸術活動への興味を持つきっかけづくりにもなっています。次に (5) 文化祭について。こちらも芸術祭と同様に、文化協会に委託している事業であり、美術展と舞台芸術披露があります。こちらに出演されるのは、古賀市内で活動している市民であり、特に習熟度に縛りはありません。平成29年度は、文化祭は展示5日間、舞台披露は3日間行い、古賀市では最大の文化の祭典となっております。(4) 芸術祭と (5) 文化祭については、近隣市町村の実施状況や規模を調査しておりますので、今後実施形態の見直しを行っていく予定です。(6) コンサート事業について。こちらも文化協会への委託事業です。13時半から15時までのサロンコンサートと12時半から13時までのランチタイムコンサートを実施しており、現在は月ごと交互に行っております。文化協会の所属団体と公募した市民が出演しており、発表の場になるとともに開かれた空間で行っているため、小さいお子さんを連れた保護者の方でも気軽に音楽を楽しむことが出来るようになっております。次に (7) 童謡まつりについて。こちらも文化協会への委託事業になっております。公募により出演者を決定しており、未就学児から高齢者の方まで毎年数十団体が出演しています。童謡まつりの中で開催される独唱コンクールでは、エントリーできる小学校6年生までの子どもたちが歌声を競います。なお、ステージの背景を飾るバックボードは、古賀竟成館高等学校の美術部が毎年作成しております。次のページに行きます。次は歴史資料館事業です。まず (8) 企画展について。毎年テーマに沿って、資料やパネルを展示しています。平成29年度は同時に写真コンテストや講演会、工作イベントも実施しました。次に (9) 自然史歴史講座について。古賀市の歴史をもっと知ってもらうために、現地学習や講演会等を実施しております。平成29年度は子ども向けの講座や工作も実施しました。(10) ミニパネル展について。こちらは、歴史資料館展示室内で船原古墳の最新情報について適宜展示しております。次に (11) 歴史資料館体験パスポートについて。これは長期休業中に実施する子ども対象体験メニューです。体験したらポイントカードにシールを貼っていき、一定の量が溜まるとそのつど景品があります。すべて達成するとお楽しみ工作が体験でき、平成29年度はハート型の装飾馬具である杏葉のデコ

レーションを行いました。次に（12）ナイトミュージアムについて。これは平成28年度生涯学習センターオープンを記念し、新しくなった図書館や歴史資料館の紹介を兼ねて始めました。図書館で本を探したり、歴史資料館で遺物を探したり、同じ班の仲間でミッションをこなしていき、馬具カードを集めて、夜の館から脱出するという体験型イベントです。オープニングとエンディングにはアニメーションが流れるアトラクション仕様で子どもたちが歴史や図書に興味を持ってもらうきっかけづくりにもなっております。（13）子ども考古学部について。こちらは平成29年度から新たに実施する予定の事業です。全4回の講座で、第1回が10月28日に開催予定です。小学生を対象に、古賀市の歴史を知ってもらうため、考古学の話と古代体験を用意しています。以上が古賀市の個性を起こすの今ある宝を再認識するの事業になります。なお、歴史資料館の平成30年度事業については、内容や事業規模について現在検討中であり、先程紹介したものと異なる場合があります。次のページ、古賀市の個性を起こすの眠った宝を起こすについてご説明いたします。こちらは2事業になります。（14）こども美術展について。こちらは文化協会の委託事業です。市内小中学校の児童生徒の優秀な作品を表彰展示する事業です。以前から審議会で、展示の機会は多いが子どもたちの絵画を描く力の育成が必要ではないかとのご意見をいただいておりましたことから、本事業を見直しすることとなっておりました。こども美術展のかわりに、古賀竟成館高等学校のデザイン部の生徒の協力の下で絵画教室を実施する方向で検討しております。その下の一点美術展も該当事業となっておりますが、環境づくりではなく、古賀市の個性を起こすの、今ある宝の再認識をする方に記載しております。訂正をお願いいたします。次に、古賀市の新しい魅力を起こすの、人にやさしいまちづくりについて、こちらは1事業となっております。（15）アート・バスについて。こちらは未就学児から中学生を対象にバスに乗せて美術館に連れていき、本物の絵画に触れる機会を提供する事業となっております。ただ鑑賞するだけでなく、作品について班で話し合う実施方法をとっており、九州産業大学をはじめ多くのボランティアに支えられながら実施しております。次に古賀市の新しい魅力を起こすのざわめきづくりについて。こちらは（16）レッツトライ！プロジェクトが該当しますが、こちらは環境づくりの側面が強いため、そちらに記載しております。では次のページに移ります。ページ数を入れておりませんでした。ピンクの環境づくりが記載されているページです。環境づくりについてご説明をさせていただきます。（16）レッツトライ！プロジェクトについて。こちらは、コーディネーターの坂﨑さんとともに、市内で文化芸術活動をされている人、したいと思っている人を対象に、事業運営や企画立案の方法を学んだり、仲間づくりを通して古賀市を文化芸術の力でもっと盛り上げる人材の育成を行っております。平成29年度は参加者でグループを作り、活動資金の獲得に向けて、現在のところ活動しています。本課ではそれをサポートするための講座を実施予定としており、本年度の事業内容は、現在検討中ですので、何かご意見いただけると大変助かります。次に（17）文化芸術振興計画管理事務について。来年度は文化芸術振興計画の見直しの年となっていることから、委員の皆様には大変ご負担をかけることとなっております。近隣市町で見直しについての調査や聞き取りを行っており、来年度の実施回数につきましては、今年度から1回増え、全6回を予定しております。ざっとご説明しますと、5月に新しい任期になりますので、委員の委嘱と今年度の計画について、また計画の見直しについて市長より諮問をさせていただこうかと考えております。2回目が7月頃に計画しており、そこで計画の見直し案を提出させていただければと思っております。第3回は8月頃に予定しており、歴史資料館の要覧の承認や文化芸術振興事業の報告、そしてまた計画の見直しについてお話をしていただければと思っております。第4回は10月、今回と同じ回になり、文化振興事業の予算案についてご審議いただくとともに、計画の見直しについても同時並行でご審議いただければと思っております。最終的には第5回の時に、見直しの最終案を話し合っていただき、会長より答申を頂く予定としております。最後の第6回は2月頃に開催予定で、パブリックコメントをすべて終えた状態の計画をご提出させていただけれ

ばと思っております。これは現時点での案であり、委員の皆様のご意見をいただきながら、変更していただきたいと思います。是非よろしくお願いいたします。最後になります。誇りを起こすについて。(18) 古賀市民音楽祭について。こちらは古賀市文化芸術振興事業補助金の対象事業であり、文化協会の自主事業でもあります。平成29年度に第三者機関による補助金の必要性や実施形態の見直しをする補助金検討委員会が行われており、まだ正式な結果は通達されておりませんが、ヒアリングの段階で様々な指摘事項をいただいております。それに伴い、見直しを含め今後の実施形態について、要検討となっております。以上が来年度実施事業の説明及び予定となっております。現在検討中の事業がほとんどです。皆様のご意見いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

(緒方会長)

はいありがとうございました。多岐にわたる事業の説明をしていただきました。ただ、最初にお話しされたように、このアクションプランを寄りどころにしていると、財政と話をする中でも、条例という根拠を、さらにはそれに伴ってアクションプランという後ろ盾を持って、財政と交渉していけるといいと思っています。アクションプランのここにある事業について、今回予算要求させてくださいというところで、実際30年度については、行政が行うことだから、いろいろな方向性をその時々の状況で見直しというのもあるし、到達度をもって見る中において、今後新たな展開も予想されるものについては、検討していくことになると思っています。順番にそれぞれご意見あるかと思いますので、お話を聞かせていただきたいなと思います。(1) 糟屋地区美術展からいきましょう。それで (8) 企画展というのが2ページ目になるかと思います。それから (14) こども美術展が3ページ目、(16) レッツトライ！プロジェクトが4ページ目になります。ということでよろしくお願いします。では順番に1枚目のところで何か質問ありますか。次年度に向けては、予算査定はいつぐらいから始まるものですか。

(事務局)

来月から始まります。

(緒方会長)

今上がってきているものについては、予算申請書というのかな、そういうのを作って、事業のアウトラインというのかな、そういうのを出していくということなのかな。近日中に内容が固まってくるということですよね。それぞれの今年度の事業の様子をご覧になっている方々もおられるかと思います。具体的にそのプロジェクトの成果と課題、それと次年度については、自分たちでいかに外部資金をとってくるのかなど、それぞれの観点で1ページ目から順に疑問や意見など忌憚ないところで出してもらえるといいかなと思います。1ページ目どうですか。適宜挙手していただければ、順番に話していきましょう。

(西野委員)

一点美術館を見たことないのですが、一点しか毎月飾らないのですか。

(事務局)

はい。前年度受賞された方の作品を毎年月ごとに一点ずつ市民ホールに飾っています。以前から紫外線などの問題をご指摘いただいていたので、展示場所については管財課と相談させていただき、現在検討中です。

(緒方会長)

公開していくのはいいことですが、やっぱり預かった作品だから、作品が紫外線や熱で痛むというのは悲しいこと、その後退色したり変色したり、特に絵具を使っているものについては、ひび割れなどいろんなことが起きる可能性があるので、そこは十分注意して公表の場を用意して下さいと申し入れを審議会から出しているところです。管財課と話して少しでもいい環境で皆様に見ていただくということで継続してお願いいたします。それでいいですかね。

（米倉委員）
一点美術館と、他に公共施設の美術品を飾られているでしょう。市役所内に飾られているのが一点美術展で、他に駅と学校や市役所いろんなところに置いてありますよね。それ別の項目でいいじゃないかなと思いますが。
（事務局）
(3) の一点美術館は、公共施設美術品展示という大きなの事業の一部として実施している事業になります。他の展示についても、公共施設美術品展示一環としてやっています。
（緒方会長）
公共施設美術品展示というものがあって、中項目ぐらいで個別にある中の一つに一点美術館があり、今米倉委員からお話あったような市役所や駅というところの展示についても、この中の予算でやっていますと言う風に捉えればいいですか。
（事務局）
はい。
（米倉委員）
この頃古賀駅を使っていて、階段を通るのが楽しみになっています。作品が替わるから、使う人にとっては階段で立ち止まって観る楽しみがある。展示をされている方、いつも大変だと思いますが、駅とかはきちんと展示して欲しいなと思います。
（事務局）
すみません。訂正で駅の展示の中でも古賀駅美術館に関しては貸館という形で、団体さんが月ごとにいつ展示したいという希望を本課が取りまとめて、団体さんが適宜展示をするという形になっております。貸館としては建設課が管理をしており、団体さんの展示スケジュールを文化課が取りまとめております。
（緒方会長）
JR に賃借料を払っているんですか。
（事務局）
そこは市の通路になっていて、建設課が管理しています。
（西野委員）
1 ページのところで、2 点教えていただきたいのですが、不勉強なのかもしれませんが、4 番目の芸術祭、5 番目の文化祭、基本的にどう違うのかなと思って。文面的に芸術祭の方がグレードが高いのかなと。活動団体の師匠師範クラスという文言があります。ですが、内容的にまず展示物が違うのか、そこらへん何か具体的な住み分けというのはありますか。
（事務局）
はい。ご説明します。芸術祭については、西野委員のおっしゃるとおり、師範師匠クラスの方々の作品、そして舞台演技ということで、かなりグレードが高いものになっています。文化祭に関しては、そういう習熟度の縛りはなく、活動されているかなりの人数の団体さんが発表する機会となっています。芸術祭の舞台演技は 1 日だけなのですが、文化祭に限っては団体数が一気に増えますので、3 日間舞台演技の披露時間があります。
（西野委員）
それともう一つ、芸術祭ですね、私も今年拝見させていただいたのですが、展示物これぐらいでしょうか。場所の問題もあるでしょうけど、展示品が少ないのかなという気がしました。次に 6 番目のコンサート、ここにランチタイムコンサートとして、お昼時に気軽にリラックスと書いてありますが、まず時間帯と場所からして、たまたまその時間中に市役所に来た人それから職員に限られます。なかなか一般的に、これだけを 30 分だけ聞きに行こうかということにはならないと思います。それでも、こういうものでいいとお考えでしょうか。

（事務局）

はい。コンサート事業について、開催場所は交流館のフォーラムで、ランチタイムコンサートもサロンコンサートも開催しております。人が集うというところで、会場はそこにさせていただいております。そこは、天井まで吹き抜けになっていて、音楽がすべて広く伝わるようになっていて、利用されている方々が音楽を聴けるようになっております。お昼時であれば、皆さん休憩時間にも、近くでお勤めされている方でも立ち寄りやすいのではということで、お昼時にご飯を食べながらでも聞けるように開催しております。

（緒方会長）

目的というのが大切でしょうから、今のお話を聞くと、お昼時にふらっと寄れるところに音楽があるということが一つの目的になっています。団体の方も気軽にできるコンサート、気軽に市民と交流しつつ自分たちの成果というか、聞いてもらえる場が用意されているという風に住み分けがありそうだということですね。よろしいですか。

（中山副会長）

童謡まつりで、ステージのバックボードを古賀竟成館高等学校の美術部が作成されているのはとてもいいと思います。眠った宝を起こすの方にも、中学校の美術部や古賀竟成館高等学校とかと連携されると書いてありましたので、童謡まつりだけでなく、例えば芸術祭とか文化祭でもどこかそういうところで、子どもたちが描いたものを生かせる場を、ポスターとかそういうところを是非できるだけ使っていただけると、子どもたちも自信になるのでよろしくお願いします。

（坂﨑委員）

4 番、5 番ですね、文化祭、芸術祭ですが、右側に方向性と検討と書いてあります。以前からいろんな場所で申し上げていますが、事業がすごく多いのでいろいろ統括する機会として期待できるところです。ただ、お隣に文化協会の諸先輩がいらっしゃって、僕も文化協会の理事をさせていただいており、言いにくいこともありますが、芸術祭、文化祭の違いというのはいろんなところで話も出ております。特に予算については、市費の部分が特に大きいと思います。委託で運営されているのが大きいとはいえ、市民の皆さんへの浸透度や普及度合を考えると、もう少し事業の内容について検討される機会があったらいいと思います。ただ以前から、文化協会の理事会でも話は出ていましたが、どちらかを無くしてどちらかにするということではなく、新しいものとして検討するというのが大事ではないかと思います。特に運営やプログラムの中身を見ていると、高齢化も進んでおり、10 年後同じように開催できるかというと、非常に難しく、予算規模等々比較すると、もう少し検討されてしかりだと思います。もう少し広く市民の皆さんが参加される機会や見に来ていただける機会を提供するというのも非常に大事なことだと、運営に携わって感じています。今参加されている方のみならず、いろんな人たちにそういう意見があるようなので、早急に具体的にわかる形で反映していただければと思います。この審議会の中でもご意見があれば、是非伺いたいなと思っているところです。以上です。

（緒方会長）

文化協会に様々な形で行政の方から委託されて、文化協会が主体となってされていることでもあり、今のお話から委託された側として文化協会の中でも、いろんな話し合いはされていると思います。まずは文化協会の中で、その話を丁寧にされていく中で、見ていても「まつり」というのがたくさんあるので、「まつり」は、すごく人が賑わうために必要だけれども、「まつり」があまり多すぎると、主催者も市民も「まつり」疲れしてしまう。当初は皆さんに色々刺激を与えるという意味で「まつり」というのはとても意味があったのでしょうが、ある程度安定してくる状況が生まれてきているならば、新たな展開を検討され、一番は市民の皆さんが「まつり」をきちんと楽しめ、自分達が参加者になれば、その参加の場、お披露目の場を用意できるような「まつり」になっていくことなのでしょう。それは文化協会の中でも十分に話をしていってください。

（志賀委員）

この芸術祭、文化祭については、事前に文化課の方からご依頼があり、形を変えて一体化については早急に結論を出さなければいけない時期だと思っています。ですから、私どもも検討しており、芸術祭、文化祭を同じ期間、例えば10月ぐらいに3日間で、それを毎日10時から18時まですると、芸術祭も含めて一般の方の参加も迎えて、3日間でやれそうだという計算を今やっています。まだ皆さんと一緒に検討していませんが、事務局の中で計算したところ、10月頃に芸術祭も文化祭も一緒にできるのではないかという見通しを立てつつ、まだまだ検討の余地がありますが、そういうことを考えております。協会の会員さんは1年間通じて文化祭に向けて練習をし、それで元気になって、また輝いているという大事な要素があるから、なるべく、会員の方の意向を受けてやらなければと思っています。何が何でもというような気持ちはありません。改善するところは改善するという方向でやっております。中間報告です。

（緒方会長）

10時から18時と期間を少し長くする。行っていく中でより発表の場を確保していきたいと。欧米だとそれこそ3日間オールナイトで芸術祭を行うというところもあり、勿論それについては安全確保とか様々な問題をクリアする中で行われているのでしょうが、市民が本当に様々な時間帯で出演して、自分たちのこれまでの1年間というのを皆さんにお披露目するというのが話題を呼ぶまちづくりなんかになれば面白いかもしれません。だから古賀でやってくださいという話ではありませんが、少し時間を延ばすことは何か意味があるでしょうね。時間を短くすると出たい人が出られなくなるから、今お話があったように、この間ボランティア講座でもそうでしたが、いきあうというのが大切だなと思いました。自分たちも活動して生きている実感を得る。それをこのボランティア活動で、参加する中で生きている実感を持つ、両方がいきあう。文化祭を見させてもらったけども、本当に自分でステージに立つ人たちは生き生きされています。1年間これに向けて頑張ってきた、それを皆さんに見てもらって、勿論成熟度としてもう少し皆さんに頑張って欲しいところもありますが、それは発表の場を経て自分たちで気づくことにもなるから、それを観る人たちも楽しみをもって、いきあう場所がそこに用意されていることがいいなと思います。こちらも第三者ですが、そのエネルギーを感じて清々しく会場を出ました。厳しさはありますが、厳しさも前に向けて文化協会の中で検討してもらい、文化課とも調整をしてやっていただくといいのかなと思います。

（加藤委員）

一点美術館はかれこれ20年近くになると思います。自慢ではないですが、私が職員の時に企画して始まった事業で、現在絵画が中心の展示だと思います。昔は、ある時期3月に明治初期の雛飾りを展示しました。すごく好評で、絵画のみならずいろんな工芸品を含めて、広い視点から展示を考えれば成果が出ると思います。私が担当の時には、前年に次の1年の何月に何をやるというのを決めて、それにのっとって展示をしていました。早いうちから1年後2年後の計画を立てていけば面白い企画になるかなと思います。文化事業に関しては、この中に新規事業というものが入っていません。いろんなスクラップビルドも大切だと思いますが、新規事業を起こすというのは、特に委託事業が多い中で、市が主体となった事業、これは当然担当も含めて職員のスキルアップにつながって、将来いい成果を出します。難しいかもしれませんが、ちょっとハイレベルなビエンナーレとか、トリエンナーレなど。芸術家というのは1年で作品は出来上がらないので、2～3年に1回の美術展、これを是非市の主体で。予算をかけないで出来る方法はいくらでもあります。そういう企画が欲しいなと思っています。一応参考までに。

（緒方会長）

とても大切なことだと思います。やっぱり新規事業を起こすというのは、これだけ予算が絞り込まれている中で厳しいですが、だからこそ今の事業を精査していくことも、お金を絞り出すとこ

ろでは行政の大きな仕事になります。今のお話を受けたところで、よりよい30年度の事業というのを検討していってもらえればいいと思います。一点美術館は今お話があったように、スケジュール管理がとても大切だと思います。やっぱり、受賞した方の作品をお預かりする訳ですから、予めその方々も別のところに展示するかもしれないので話をしておく方が安心です。急に言われると貸し出す方も困るのでしょう。公開展示されることは、持ち主からしても嬉しい事ですし、今話し合ったようなスケジュール管理をされていくといいなと。それといろんな作品、市民のお宝とかそういうのを展示する方向もあるかと思います。仕事を増やすのはよくないことだと思いますが、少し考えてください。お願いします。それでは、次のページに進んでもいいですかね。皆さん資料館にも行かれたところかと思いますので、それを踏まえて質問等お願いします。

（西野委員）

館長にお伺いしたいのですが、先日の石井先生の漂流物、非常に私どもの間でも好評だったのですが、もう少し色々見たかったな、並べて欲しかったなと、ただ場所の問題もあるのかなと。こんなものまで流れていたのかということで、私の耳には非常に好評だったという話が多かったですが、今言いましたように、もうちょっと面白い物があったのではないかというのがありまして。

（木村館長）

はい。おっしゃるとおり石井館長の漂着物は、もの凄い量があり、ミニ博物館をお持ちで、私どももそこに見に行かせていただきました。いっぱい物色したのですが、どれをどの程度持ってきたらいいか、自分達で判断がうまく出来なかったので、ショーケースの中に展示できる量を考えて借りてきました。大切な物をお借りするので、外に置いていて無くなったりするのが申し訳なく、ケースの中で収まる量を考えました。確かに来館者の中にはもう少し見たかったなというご意見もありましたので、このあたりのところは今回の反省だったかなと思っております。ご意見ありがとうございます。

（緒方会長）

古賀の宝ですね。やはり漂着物の研究は古賀から生まれた訳で、全国の漂着物学会の会長も務められ、古賀にとってみるとすごく意味がある。それと海に囲まれた日本っていうのを考えると、非常に貴重な資料となっていますので、1回にとどまらず定期的に資料を展示することが必要。勿論、今、船原古墳が脚光を浴びているので、資料館の学芸員の人達は、そちらにかかりきりにならざるを得ないと思いますが、この漂着物についても、資料があるわけだから、資料館の継続的な研究材料として、勿論、石井先生の個人的資料だから、ご遺族の方々がその資料をどのようにご判断されるのかということについて、気にされていた方がいいのかなと思います。やはり継承できなくなるというケースが非常に多いですから、その時にどうするのかなという相談は、古賀の方が受けることが考えられるからですね。

（豊村委員）

先日、展覧会の下見で会場を見に行きましたが、壁に固定された鍵付きの展示ケースしかなかったので、独立した展示ケースがあればもっと展示しやすいかなと思いました。

（緒方会長）

例えば、移動の展示ケースについては、造作物として展覧会ごとに作るようなものならば、数万円で出来ます。盗難防止を考えビス止めが出来るようなものでも、10万までしないと思います。中に入れるものにもよりますが、必ずしもきちんとした物でなくても、展示出来るケースの作り方はあります。実際、展覧会を企画し実施運営するという主催者は、専門職員でしょうから、彼らが展示についてどういう意図を持ち、どういう風に展示したいのかで、展示ケースの必要の有無が出てくる。そんなに高い物ではないから、出来ないこともないでしょう。先生の言われたように、鍵付きのケースで見せるより、独立の展示ケースで見た方がより近くで見られますからね。そういう意味では資料について観察する機会を提供した方がいいと思います。

（志賀委員）
石井先生のところのミニ博物館とおっしゃいましたが、訪問したら外部からでも見学できますか？
（木村館長）
今は奥様が管理されています。整理が出来る状態ではないということで、なかなか外部からの方は受け入れられていません。
（坂﨑委員）
どこにも書いてなさそうですが、宗像の事が気になって。世界遺産に登録されたことで人の動きがすごい量になりそうだという宗像市が大体予想しているデータをどこかで見たのですが、それを考えると、交通アクセスの問題で古賀市を絶対通る可能性が高いです。そこに、そういう人たちが好むものをこちらが先に準備してプレゼン出来るとか、どうせ宗像行くなら古賀も寄ろうかという動きは必要かなと思います。例えば、予算の問題とか、消費ばっかりじゃなくて生産性も必要なので、直接的に収益がなくても何か人が動くことで、収益を上げていくというのは大事なことだと思います。特に歴史関係で宗像の人の活動を見ただけでもの凄い量なので、そこは逃さずに戦略的に出来たらいいなと思うところです。今書いてある事業でも、ここは関連があるなと思うところも少なくないので、実現出来たらいいなと考えます。
（緒方会長）
宗像は、今の話でいうと小中学校で世界遺産教育というのを始めているようです。小中学校の子どもたちは、世界遺産を地域の宝として意識する、そういう歴史教育を単独でされている。でも、船原古墳など、直接的な関係っていえるのかどうかはこれから解明されていくでしょうが、歴史的な面の広がりとするならば、非常に重要なものを古賀は持つことになったと言えるでしょう。例えば宗像の海の館でしたかね、歴史館みたいのがありますよね。そういうところに、船原古墳のパンフレットを置かせていただけると、こんなのが近くにあるのかということで帰りに寄る。交通のアクセス等わかりやすくなっているのかな。船原古墳について。
（事務局）
はい。恐らく船原古墳の現地のことをおっしゃっているのかと思います。現地は今年度、広場整備と言う名前で公園ではないのですが、駐車場など簡単に整備する工事に入ることになっています。まだ現地に行きましても草も生えており、車も停めにくい状況です。そのため現在としては、船原古墳の道路標識のようなものは明示していない状況です。来年度以降整備が終わりまして、人が来ていただけるよう手続きなど行うように考えています。
（緒方会長）
資料館はレプリカを作っていたから、それは常時展示していることになっているんですか。
（木村館長）
はい。資料館はレプリカと、船原古墳から出土した釘や農工具などの現物を展示しております。九州歴史資料館で、今現在 500 点ほどが出土しておりました、その中の 200 点程度が少しずつ解明されて、クリーニングが出来上がっておりますので、それを随時少しずつ持ってきて展示し、また預けるという状態で回しているところです。
（緒方会長）
関連を持たせながら、人の流れはいただくという風にしていいでしょうね。
ナイトミュージアムって何時から何時までやっているんですか。何となく夜のイメージですが。
（事務局）
はい。18 時から 20 時くらいの間で行います。グループごとに行動するので、きっちり終わるわけではありませんが、大方その時間に終わるように計画しています。

（緒方会長）
さっき高校との連携の話が出たのですけど、どうですか？
（事務局）
古賀竟成館高等学校のデザインコースとの連携ですかね。こども美術展が検討と書いていますが、こちらの事業の代わりといいますか、展示事業は以前からたくさんあるのですが、子どもたちの絵画を描く力の向上が必要ではないかというご意見が審議会からありました。そういったことも踏まえて、子どもの絵画教室ということで、古賀竟成館高等学校のデザインコースと連携して、生徒さんたちを講師にする形で、まだ計画段階ですが、最新の電子機器等が古賀竟成館高等学校にはそろっておりますので、アナログで描く方法から最新の電子機器を使って描く方法まで、そういったことを学べる絵画教室に出来たらなということで、今現在協議を進めている途中です。
（緒方会長）
うちもそうだけど、教えると技術の確認が出来るし、そこで足りない知識を授業でさらに掴み、すごくいい学びのサイクルが出来てくる。こういう場で高校生講師というのは非常に有効です。ただ、こういうことをやる時には、今大学もそうですが、受験生確保が非常に重要な要素なので、高校生講師というのをマスコミ等に取材してもらえるとか、何かそういう高校にとってもメリットを用意してあげないと、使うばっかりでは彼らも疲れるし、舞台にちゃんと乗せてあげることを併せて考えていった方がいいと思います。長続きを考える。それから、多分定着してくると、学校の方もカリキュラムの中に組み込もうという動きが出てくるのではないでしょうか。うちの大学でもそうですが、カリキュラムの中に子どもたちを迎えての講座を演習で来年度からですが考えています。演習に入れ込むと授業の中でやれる。ボランティアだとやっぱりきつくなってくるから。授業できちんと収めようという考え方も多分出てくるので、少しずつやるようにしないと長続きしないので、そこは十分に話し合いを進めた方がいいと思います。
（中山副会長）
アート・バスですが、古賀市内の4～5歳児とその保護者と書いてありますが、どんな感じで行われているのかなと思いまして、ちょっとお聞きしたいのですが。どういう風にされたいと思われているのでしょうか。
（事務局）
平成29年度に初めて4～5歳児を対象に行いました。親御さんが1人付いてきて、親子で観ていき、子どもたちにこの作品はどういう風に見えるか、どこが気に入ったか、そういう中でお気に入りの作品の前で説明をしてもらい、その説明を聞いている子どもたちが一緒になって意見を言っていくという形で行いました。大学生のボランティアさんたちの力も大きかったのですが、小さい子なので、素直にいろんな意見が出て、親御さんと一緒に何に見えるというような、親もそういう見方があるのかという発見にもなっていました。子どもたちもただ観るだけではなく、自分の意見をみんなに伝えて反応が返ってくることがとても楽しかったようで、かなり好評に終わりました。来年度以降も出来たらなと考えています。
（中山副会長）
この4～5歳児というのは、すごくいろんなことに興味をもつ年頃なので、たくさん増やしていただくといいかなと思います。本当に芸術が好きな子が育っていくのではないかと思います。
（緒方会長）
これでいうと、今の手法はビジュアルシンキングストラテジーといって、アメリカニューヨークの近代美術館の開発した一つの対話型の鑑賞法です。これは何ですかっていう聞き方ではなくて、この絵の中でいったい何が起こっているのだろうかと。絵本がまさにそうです。ストーリーテーリングのような形で絵画や彫刻などの作品を観ていく。これは何ですかだと、答えを探そうとする。答えを探そうとすると、○か×かになるので、違っていたらどうしようかという気持ちにな

る。なかなか自由に発言がしにくい。だけど、この絵の中で何が起こっているのだろうと言われると、どこのことを言ってもいいんだなと。気持ちのゆとりを持たせるということが一つある。その時にどこを見てそう思ったのか、確実にその根拠を引き出す、何気なく言っているのではなく、ここを見てこの子は言ったのだろう。そうすると、他のところを探そうと、点が集合して面に広がっていく。そういう鑑賞法が日本にも入ってきて広がっている。この新しい学習指導法などが、オリンピックぐらいのところから本格的実施されます。図画工作の中には、VTS という手法が入ってくるのではないかと言われています。先生達もそういう手法を学ぼうという動きになっています。今言われたように幼児期の鑑賞法として、これまでは無かった、幼児期の美術館鑑賞は非常に難しいと言われていたが、一つの鑑賞法として、このようなものを提供するというところですごく意味がある。今後は歴史などにも広げていく取り組みが博物館の中で起こりつつある。歴史も 4～5 才が来ても、何を言ったらいいのだろうというのがあったと思うが、発見する喜び、そこから博物館・美術館への導入を幼児のために図っていく一つの方法があるようです。

(西野委員)

今会長が言われたように、最近の傾向として、お年寄りの参加者の年齢が、だんだん下になってきています。我々の今後の課題かも知れません。それと私自体が、まだ中川の老人クラブに入っていないのですが、老人クラブの参加年齢も、長生きしている反面、下がってきているのではないでしょうか。どうなのでしょうか。

(事務局)

申し訳ありません。老人クラブの参加年齢については本課ではわかりかねます。

(坂﨑委員)

補足ですが、アート・バスは九州産業大学と福岡教育大学の学生に手伝ってもらっていて、当初の計画でその人たちのスキルアップに繋げていくという、単に子どもの見守りではないですよというのを実現しています。ここに書いていないことで、市民の大人の人たちを募集して、今 2～3 人、大人が参加しています。すごく勉強熱心で、いろいろ学芸員の方に質問したりもしているので、そういう人たちがまた育っていって、人材育成に繋がっていったらいいなと思っているところです。最初の呼びかけから 3 人だったので、アート・バスを運営しながら育っていき、そういう人たちが増えていけば、いろんなことが実施できると思うので、繋がればいいと思っています。

(緒方会長)

やはり人づくりというのは重要で、時間はそれなりにかかりますが、続けられることは続けていき、それなりに長いスパンで考えなければいけない。今後は主体的に自己学習していくこと、展覧会に行った時に、学芸員の方に質問するのも悪いことではないことがわかり、ドアの叩き方を覚えるのも大切なことと思います。

(西野委員)

行政がおこすの短期のところに、まつり古賀や食の祭典の観光云々とあります。これに関連するのですが、最近の傾向として、神社仏閣を回った最後にお菓子団地に行きたい、食品団地に行きたいという声が、希望項目の一つに入るケースが非常に多くなっています。15 時頃になったら、ここはいいから早く行こうという傾向もあります。これは目立った最近の傾向です。

(緒方会長)

お菓子団地というのがあるんですか。

(西野委員)

正式な名称は鹿部の工業団地、食品団地。

(緒方委員)

その中にお菓子の工場があって、一般の方にも公開しているというか、バスで乗り付けられる場所になっているんですか。

（西野委員）
少し安くて、お菓子だけでなく蒲鉾店もあり、そこに最後に行きたいという要望が非常に多くなっています。
（緒方会長）
博物館業界もある大臣に迫られましたけど、観光と言う要素は非常に強いわけで、ただ歴史や美術を観に行くだけでなく、プラスアルファも必要になってきている傾向があるかもしれません。
（坂﨑委員）
関連する話で、レッツトライ！プロジェクトについてですが、観光を文化の力で盛り上げるということで、もともとの切り口を薬王寺温泉活性化みたいなところから始めて募集して、若い人たちが数名来られた新しい展開だったのと、具体的に鹿ウォッチングみたいなものをやろうと始めたところ、意外にうまくいきませんでした。まずお金がないというところで、資金を得ようと、いろんな人たちの協力を得て、別の事業を始めたりしました。今度計画しているのは、食をやってみようということで、古賀の郷土料理を作ることを始めてみたり、いろんなものをやってみたりしているのですが、この前の会議で、どうやって作ろうか、誰を呼ぼうか、また薬王寺に戻してそちらから来てもらい、また人を増やそうと考えているという意見が出ました。時間がない単年でやると、これで始まってこれでゴールという一直線で出来ますが、何年か出来るだろうという勝手な予想で、行ったり来たり右往左往しながらやれているところは悪くないところです。これで資金が得られれば、そもそもやろうとしていた鹿ウォッチングが出来るだろうし、薬王寺には夜中たくさん鹿がいるので、古賀市内の人には新鮮ではないでしょうが、福岡市内の子どもにとっては新しい発見になるのではと思っています。動物園では見られない、檻に入っていない動物を見ることが出来るので、それを売りものにして薬王寺に人が来たらいいなと思っているところです。そこへ繋げる資金を得ることが出来そうな気がしてきたので、うまく運営出来たらいいなと思っています。何よりそんな人がいたんだという人たちが現れてきそうだし、人が少しずつ出てきて育っていくのは新しいことかなと思います。どれぐらいの人がいると、どれぐらいの事業が出来るかっていうモデルがあるでしょうが、それではない方法で、すごく底辺のところで、地域のコミュニティとかそういうところを駆使して、人を集めているのが上手くいけばいいなと思っているところです。文化課の方にもすごく協力していただいていて、新しいやり方なんじゃないかと思うのですが、これやりましょうという風に言ってもらうのではなく、あたかも参加者の人たちから話が出てきたかのようなことで始めている。そこは結構新しいのかなと。従来は行政の方からこれやりますから皆さんよろしくというやり方だったのですが、最近はSNSとか駆使してやっているので、それはバレたくないのですが、そこは面白いなと思っているところです。市民の側は人材育成、行政の方も新しいやり方でそういう風なことにチャレンジしてもらって、うまく行ったらいいなと思っています。あとは予算がつけば問題ないのかなというところです。
（緒方会長）
今の言葉ですごくいいなと思ったのは、工夫するということ。工夫し始めると、自分たちで動き始めますよね。自分たちで動くというのは、先程も言いましたが、行政がステージを用意してどうぞというものではなく、自分たち自身が新たな道を開拓する、行ったり来たり、まさにその試行錯誤する中で、新たな知恵というものが出てくるわけで、やっぱりもう一回薬王寺に戻り、薬王寺から誰か呼ぼうかとか、食ということで言うと、何かその人たちと一緒にやれば、新たな食が出てくるのかな。鹿ウォッチングだけではなかなか人は呼べないが、そこに食や温泉というのがあり、いろいろな地域資源や社会資源をセットにしていくということは、自ら発見していかないと頼まれてやっても気づかないところであり、本当に地味に歩いて行きながら、人と関わりながら、地域をもう一回社会資源を探しながら積み重ねていくと、前に進み始めていく。でもやっぱりお金が必要だから、そのお金についても、鹿ウォッチングっていうのをメインにしながら、

新たなツアーみたいなもので、クラウドファンディング等で調達するようなところも一つアイディアとして、若い人が入ってきたというなら、情報拡散とかが得意な若者たちが多いので、そういう事業をやるなら、ちょっとお金出してみませんかというような方法もあるので、そこは人づくりのモデル的な場として、ここが用意されていくと。またさっきの子ども絵画教室の人材育成とは違う形ですが、推進力になるような事業でしょう。でも、お金は自分たちで準備してと言っていいと思います。調達する力をつける、外部資金を取ってくる力をつけることもこれから大事です。

（事務局）

補足です。レッツトライ！プロジェクトですが、今までは単年度でしていたところを初めて2年形式で企画と実行までをサポートすることを始めました。観光を文化芸術で盛り上げるような人材をつくれたらということで今回始めました。坂﨑委員が言われたように団体さんがグループを作りいろんな方が発言をして、こちらが相談するような形でお話を持っていくと、知り合いに声をかけたり、かなり主体となって動いてくださり、今は自分たちで商品を作ってそれを販売まで持っていき、自己資金を獲得されるところまでなっています。いろいろな団体さんが、集まった方々でグループになって、坂﨑さんが主体となってフェイスブックも作ってくださっていますので、参加されているグループの方の感想文を載せたり、写真付きで活動紹介したり、いろんな方が見られるような環境になっています。今年度もレッツトライ！プロジェクト事業で実行をサポートする郷土料理の講座を実施する予定ですが、そこでも新規メンバーを新しく入れ、また違う方面の意見をもらいつつ、実行していこうという流れを予定していますので、少しずつ団体さんたちが主体となって動いていけたらなとこちらも考えています。

（緒方会長）

今実験が始まってきているんでしょう。情報が拡散していって、古賀って面白いことやってるよ、ちょっと行ってみようということで、このまま生活も出来る可能性もありそうかな、仕事を自分たちでつくっていく、最終的には今度は住もうかなと、いいじゃないここというサイクルが生まれていくというか、少し見守らなければいけないでしょうけど。

（豊村委員）

今のレッツトライ！プロジェクトに入れて欲しいことがあって、古賀に住んで10数年なのですが、新宮と福津に囲まれて、新宮と福津は新しいものがいろいろ出来て、その中にいて古賀はいろんなものがつぶれて駅の周りとかも寂しいじゃないですか。古々地庵ってカレー屋さんありますよね。あのように古民家の開発や利用をしたら、新しいもいのをどんどんつくらなくてもいいんじゃないかと思って。古賀駅の前に旅館がありましたよね。つぶされてる時に横を通ったら、古い字で食堂とかあったりして、壊すのもったいないな、何かに使えないかなと、すごく思いました。薬王寺とかも近くに空き家とかもあるのではないかと、そこでランチみたいなものを出したりしたら流行るんじゃないかなと思っています。黒川温泉のような感じで、ちょっとアイディアとして入れてもらったらと思います。

（坂﨑委員）

古民家の事でちょっと気になって、私も住んでいる地域が町川原といって、まさに今そういう人への住宅が増えつつあります。今私たちのところは、若い人たちが集まって未来を考える会みたいなものを作っているですが、そういうところの人がまず自分の行政区内の住宅事情のリサーチが出来ているので、例えばこんなことが出来るんじゃないかとか、ここが空きそうとかいうのを、それを応援するようなことを行政がやればいいなと思います。行政が一括してやるのは相当難しいと思うので。その中で、これは余談ですが、農業関係の方とお会いした時に、こんなことが出来ないかと相談したので、もしかするとさっきおっしゃったことと繋がるかもしれませんが、例えばお店をしたいからそういうところを使いたいという人たちの情報提供と、もう一つは農業を

する人が古賀市内ですごく減っていて、でも農地は減っていません。農地振興なんかの問題で、農地は農地のままで人は減っている、農業従事者の高齢化率で古賀市だけみると、よく働いている年代だなと。よそを見ると、例えばこうゆうことをやるので若い人に移住してくださいということで農業振興をやっている。古賀市で実現出来ればと思うことは、建物と農地を安く提供するので、農業するんだったら古賀市に来ませんかとか、そういうプログラムをつくれませんかということを農業関係の人に話をしたら、それは出来るかもと言われていたので、そういうものを売りにできたらと思っているところです。多分3号線より向こうを今から大規模な住宅開発とかやらないと思うので、農業振興につながるような形で住宅提供していくことも、住宅だけではなく商店とかそういう形で提供できるのではないかと思います。行ったことはないのですが、宗像に音楽をやっているスペースで築90年だったと思うのですが、そこで今ジャズのコンサートを年に何回かやっていて、環境がいいので1～2万円のチケットらしいのですが、東京からわざわざ聴きにやってくるという事業をやっている方がいます。ビックリしましたが、そういうものをレッツトライの中で運営出来たら面白いし、さっきの農業振興と併せて着手出来るのではないかと思います。何か新しいことをやらないと、さっきおっしゃった福津や新宮は今商店とか新しいものが出来ていますが、古賀でそれが出来ないのであれば、古いものを利活用するとか、そういうものをやりながらそこで人を育てていくとか、繋がればいいなと思います。

（緒方会長）

すごく嬉しいなと思っています。うちの大学は来年から地域共創学部地域づくり学科が出来るので、今のお話は本当にテーマになるなと思います。

（坂﨑委員）

レッツトライで一つだけ前から出ていたのは、閉まった旅館があって、前コーディネーターでお世話になっていた大澤さんからアイディアをちょっといただいたのですが、こちらの方では映画館はトリアス久山とイオン福津に大きなシネコンがありますが、昔天神にシネテリエというマニアックな映画を上映する50席程度の映画館があって、そういう映画の配給は、今配給会社が少ない人数でも出しています。西鉄ホールとかでそういうのをやっていますが、例えば空いた旅館で古賀市独自で古賀でしか観られない映画の鑑賞会を月に1回開くとか、そういうことに使えるのではないかと思います。何故映画が魅力的かというと、一つは暗いところなので建物を大改修する必要がない、スクリーンさえあればいいので、古い建物でもそのまま使えることです。たしか職員の方がご家族にいらっしゃいますね。薬王寺の福龍荘というところで出来ないかなと思っています。例えば、季節的にわからないですが、鹿も見られるし、映画も観られるみたいな。そういうのは魅力的だなと思っています。映画はやりたいなと思っています。

（緒方会長）

では協議事項は以上でよろしいですかね。はい。

4　その他の事項

（事務局）

歴史資料館から来年度の要覧についてご相談があります。今回お配りさせていただいているのは29年度分ですが、昨年度までは、図書館・歴史資料館の要覧として一緒に発行しておりました。今年度から、図書館要覧は図書館協議会で、歴史資料館要覧は文化芸術審議会で承認後に作成させていただき、委員の皆様や近隣の歴史資料館や博物館などに配布させていただいているところです。この歴史資料館要覧は、主に1年間の活動内容を記録するものとして考えて作成しております。本年度までは通常通り近隣の市町村の教育委員会や歴史資料館・博物館に送付するつもりですが、来年度からは要望があるところに配布したいと考えております。というのは、古賀市歴史資料館に他市町からこのような要覧が送ってくることはありません。調査したところ、他市町

村では要覧自体を作成しているところがなく、今後は希望があれば送らせていただこうかと考えていることころです。また、こうようなご時世なので、経済的観点からみても、今は業者に依頼して作成していますが、あくまでも計画・内容は資料館で作成していますので、来年度からは歴史資料館で自作していこうと考えています。簡易的なものにはなるかも知れませんが、来年度からは印刷業者が作成するようにきれいな立派なものではなくなると思いますが、ご了承いただけたらと思います。

（緒方会長）

考え方として予算縮減の中でのことですよね。それと紙媒体というものが、今どれだけ有効なのかということも考えなくてはいけない。ただ実績を積み上げていくというか、10～20年たったときにどこを調べたらいいのかということは当然出てくる。こういう歴史資料館の利用状況調査をするような研究者もいるので、全国に5,700くらいの博物館があるので、そこにどれだけの利用者がいるものなのかというのは、総合調査として国が社会教育調査をしているのですが、国民は割り算すると年に1.1回くらしか行っていない。それらの統計も各市町村から数値を上げてもらわなければそういう結果が出てこないので、どこを見ればその数値というのは読み解けるのかということになります。そうすると今までは紙媒体の提出だとか、資料館に国から調査アンケートが届いていたと思います。それが一般の方々におりていった時に何もないという訳にもいかないので、ネット上で蓄積していくとか、どこかで情報公開できるという方法は踏んでおいた方がいいと思います。データベースとしてどこかへ行けば、必ずそれが見られると、それにあたっては予算とかは伏せた方がいいのかもしれないけれども、組織や事業内容とかの数値はとても大事なので、どういう人たちがその時に講師となったのかとか、その時その時の話題にもよると思います。資料館の歴史を語るうえにおいては、予算がないから段々小さくなってくけど、データとしてどこかへ残していくことだけはしてもらいたいなと思います。

（事務局）

はい。現在もホームページにはデータを載せておりますので、今後も継続していこうと考えております。

（緒方会長）

他に何かありますか。

（事務局）

お配りしている男女共同参画セミナーについては、コミュニティ推進課から希望があり配布しておりますので、ご一読していただければと思います。それと、第4回文化芸術審議会日程調整表というのを案内と一緒に送付しておりましたが、月を書いておりませんでした。次回12月に実施する予定となっておりまして、いただいた方もいらっしゃいますが、書かれていない方は、FAXでも構いませんので、近いうちに送っていただけたらと思います。日程調整、次が12月ということで短期間になりますが、期日もすぐ来てしまいますので、よろしくお願いいたします。

5　閉会のことば（星野文化課長）

【終了】